

看護

しずおか

令和3年度

vol.6

会員数

22,403名

(令和4年3月1日現在)

- 保健師 …… 521名
- 助産師 …… 873名
- 看護師 …… 20,328名
- 准看護師 …… 681名



わたしが主役 初節句

特集1

地域住民のため、看護職のための 地区支部活動

特集2

～学び・育み・継ぐ～ 三職能活動

予定されている研修・行事等については、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止あるいは変更することがありますので、ご了承をお願いいたします。
ホームページでご確認ください。



公益社団法人 静岡県看護協会

静岡県看護協会

検索

<https://www.shizuoka-na.jp/>

[静岡県看護協会]
お気軽にご利用下さい。



令和4年度災害支援ナースの登録(個人登録)の手続きが始まります!

申込期間 令和4年4月1日～4月30日必着

登録認定期間 令和4年5月1日～令和5年4月30日(1年間)

申請資格

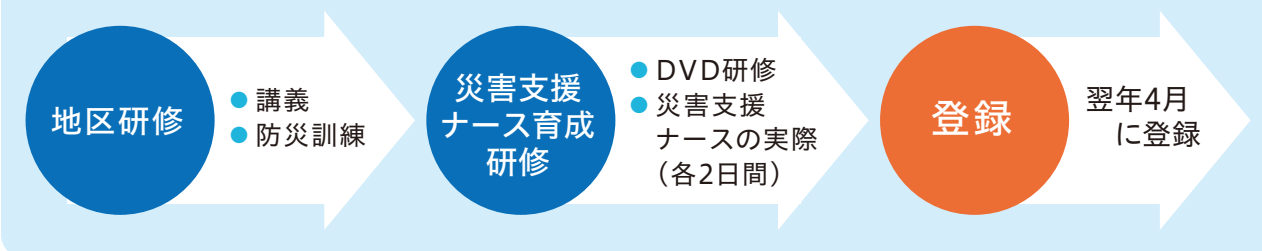
- ①静岡県看護協会会員であり、看護職としての経験年数が5年以上の方
- ②災害支援ナース育成研修を修了している方
- ③災害支援活動に意欲的であり、自己研鑽に努めている方
- ④静岡県看護協会が必要とする災害看護領域の各期において実践できる方
- ⑤勤務施設及び所属長の理解と協力を得ることができる方
- ⑥未就業の場合は連絡手段が確保できる方
- ⑦派遣依頼に早急に応じることができる方
- ⑧災害支援に支障がない健康状態にある方(年齢は問わない)

※「災害支援ナース個人登録申請用紙」はホームページからダウンロードできます

令和4年度登録者は特例として、令和3年度地区防災訓練に参加できなかった方も登録可能とします。
但し、令和4年度の地区防災訓練に参加して頂きます。

【問い合わせ先:総務部 054-202-1750】

<災害支援ナース登録までの育成研修の流れ>



昨年7月の伊豆山土砂災害では、たくさんの災害支援ナースが活躍されました。
静岡県看護協会は“いつ起こるか分からない災害”に対応できる看護師の育成を強化し、今後も災害支援ナース登録数を増やす取り組みをしていきます。

令和3年度 新型コロナウイルス感染症に係る静岡県看護協会の主な活動

- 1 新型コロナウイルスワクチン接種後副反応相談窓口
令和3年3月～令和4年3月31日
- 2 新型コロナウイルス感染症自宅待機者の健康観察事業
令和3年1月7日～令和4年3月31日まで(予定)
- 3 新型コロナウイルスワクチン接種研修
令和3年6月～7月 東・中・西部地区会場 各3回ずつ開催 397名参加
- 4 新型コロナウイルス感染症入院待機施設における事業
令和4年2月15日～2月28日(14日間) 東・中・西部の3ホテルにて潜在看護師25名勤務
- 5 沖縄県の医療人材不足に対応する宿泊療養施設に派遣
令和4年2月16日～3月13日 潜在看護師2名派遣

先人に聞く看護の道しるべ

日本一健康な町を目指して

平井 弘美

「介護保険制度は難産」と言われますが、準備の過程で医療・保健・福祉など部門間の連携や住民・団体の自主的参画の重要性が提唱され、社会資源を活用し関係者すべてが協働する必要性が認識されたことにも意義があったと思います。

保健福祉センター「さすみれ」

平成13年、役場の南1kmの所に新しい拠点ができました。検診ルーム・健康コーナー・相談室・ちびっ子ルーム・栄養指導(調理)室・健康運動室・交流室(和室)・ボランティア活動室を備え、健康福祉課(全体)・社会福祉協議会・シルバー人材センター・ヘルパーステーションが入居する2階建の総面積2,065㎡、敷地5,635㎡、工費6億8千万円の施設です。

保健センターは法定の施設で既にありましたが、何かと不便でした。各地に立派な施設が建設されている時期で、参考にさせていただくために施設のほか組織・運営にまで立ち入って伺いました。随分ご迷惑だったと思いますが、快く応じていただいたことを今も有り難く思い出します。

建設委員会に保健師6人が提案した点は「充実した保健事業の拠点」「住民の自主活動の場」「保健師ステーションではなく本課と一体もの」でした。これ等全てが実現され20年来の夢がかなったことで、この喜びは生涯最大のものでした。



保健福祉センター
「さすみれ」

医療費県下最低の評価

平成15年に県が公表した国民健康保険の医療費、受診率のデータで、岡部町の医療費は県下で最も低いと示されていました。国民健康保険連合会の会議から帰ってきた町長が「医療費の低いことは町の保健活動の成果であり、大いに評価する」と言われました。

この頃、県内外から多くの視察が続き対応に追われる程でした。視察の皆様からは医療費が低い理由を問われましたが、専ら住民の健康に対する高い意識があることを説明しました。同時に、住民と役場の二人三脚の保健活動によって「日本一健康な町づくり」が実現されつつあるかと感じ、町民への感謝でいっぱいでした。

後進の育成と仲間のこと

30歳頃から公衆衛生学の講義や研究発表の助言に、県立

厚生保育専門学校と中部看護専門学校に伺う機会をいただきました。また、学生の現場実習を積極的に受入れました。これらは上司や同僚の理解によって実現できたことであり、恵まれた職場だったと思います。2人から始まった保健師体制も時に応じた増員要求が認められ、平成13年には6人に充実されました。

平成14年頃から合併の話が始まり、焼津市・藤枝市・大井川町と保健事業の摺合せをしてきましたが、結局平成21年1月藤枝市と合併、私以外の6人が元気に巣立ちました。現在も同市で保健・介護の分野で中堅として活躍しており、大変頼もしく感じます。

保健師の所属団体

県内で公務員として就業している保健師は「静岡県保健師会」の会員になっています。以前は、市町村の保健師は「国保保健婦会」から続く「市町村保健婦会」に、県の保健師は「県保健所保健婦会」に入っていましたが、両団体が昭和63年に合併しました。行政の公認する団体として講習や研修、交流の場となっています。

看護協会の会員となって

就業して10年目、臨床経験のないことに不安を感じて協会に加入しました。「看護しずおか」「協会ニュース」には看護・保健の方向性や現場の動きなど生きた情報があり、うれしい驚きでした。研修や会合の収穫は大きく楽しい時間でしたが、職場の許可と仕事の調整が難しく、責任ある活動ができるのは退職後になりました。

保健師職能理事のときは、業務に役立つ活動が第一と考え、日本看護協会の協力を得て研修や研究活動の場を設けました。多くの参加を得たこと、会合で提起された問題・課題について日本看護協会の素早い対応があったことは、有意義なことでした。

佐藤会長の指導を得て「保健師資格の大学院化」の運動をしました。高度の知識、広い見識、企画・管理能力を備えた人が現場から求められている実情を説明し、県立大学に大学院課程の創設を要望しました。

保健師の会員が少ないことを実感し、委員の皆さんと勧誘活動をしました。毎年退会者もあって大きな改善に至らず、次期の方々にお願いしました。

副会長任期中の実務は、協会に属する公衆衛生の有識者という立場での対外活動が主なものでした。平成25年の公益法人化を経て、大きく発展と拡大を遂げる時期に運営に参画できたことは誠に感慨深く、心から御礼を申し上げます。終わりに、本稿の機会をくださいました関係各位、昔話にお目通しくださいました皆様方に厚く御礼申し上げます。

地域住民のため、看護職のための 地区支部活動

地区支部活動の目的は、看護を通して保健・医療・福祉の向上に貢献し、地域住民の健康サポーターとして健康維持増進に寄与することです。会員の資質向上のための研修会や地域住民への啓発活動を行っています。

賀茂地区支部

支部長 大村 啓子

当地区では前期に計画していたイベントの多くが中止・延期となり、それを取り返すべく後期は活発な活動が来ています。先ず一つが災害看護地区研修です。時期変更にもかかわらず27名の参加がありました。講師も計画の変更に快く応じてくださいました。そして「まちの保健室」は、以前から力を入れてきたII型が実施できず、当支部で初のI型を実施し手ごたえがありました。「ピンチをチャンスに！」皆で協力していきます。



東部地区支部

支部長 横山 直司

年度始めより、コロナ第4波で「まちの保健室」活動に影響があり、中止せざるを得ない状況でした。夏を迎え第5波が再来し「災害看護研修」の延期と募集人数の制限の中、10月に開催することができました。また「まちの保健室」も限定的ではありましたが実施でき、一般市民の方との交流や看護相談を行うことができました。11月には感染状況も落ち着いており「看護実践報告会（看護研究）」を開催し、約150名と多くの参加者を集うことができました。参加者からは、Web開催よりも集会型が良いとの意見を貰い、改めて人と人の交流の大切さを痛感しました。今後も社会情勢を見定めて、人との交流を大切に地区支部活動に取り組んでいきます。

熱海・伊東地区支部

支部長 齋藤 清江

コロナ禍のため、オンライン研修でできる企画を進めました。7月3日「災害看護地区研修」のDMAT看護師によるトリアージ訓練の最中10:30頃、熱海市伊豆山地区の土石流災害発生による緊急事態速報が流れました。家々を飲み込む激流の土石流の様子は、あまりにもリアルで生々しい映像に言葉が詰まりました。災害の怖さを知るとともに、被災者支援や災害支援ナース育成の重要性を実感しました。次年度の事業には「災害支援と心のケアについて」の企画を考えています。現在3月5日「実践報告会」に向け、開催準備を行っています。新型コロナの終息の見えない中ですが、看護の役割として、地域住民の方々と触れ合う活動も考えていきたいと思っています。



富士地区支部

支部長 佐野 真澄

昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の状況をみながらの活動でした。災害看護地区研修、看護・健康教室、集会・講演会等は中止しました。看護実践報告会は、開催方法を検討中です。「まちの保健室」は、緊急事態宣言中を除き、開催しました。相談者は少数でしたが、不安や悩みに寄り添うことができたと感じています。コロナ禍の状況でも、どのように地域住民の健康の保持・増進に寄与できるか、今後も考えながら活動を続けていきたいと思っています。





静岡地区支部

支部長 佐野 和枝

地区支部事業計画に基づき活動を行っています。2021年度はコロナ禍でもできることを模索し活動してきました。多くの人が集まるイベントはほぼ中止となりましたが、医療者の研修は可能ではないかと、「災害支援ナースの育成研修」「看護実践報告会」を行いました。2022年3月には、2020年度から計画している静岡市と協力し、救護所で活動する「災害ボランティアナース育成研修」を行う予定です。地域住民の健康増進等、看護の力で、できることを考え進めていきたいと考えています。



中東遠地区支部

支部長 大庭 富美子

今年度も、新型コロナの影響は否めないと思い、2つの事業に絞り企画しました。1つは「災害看護地区研修」でしたが、第5波で断念しました。2つ目は、3月に予定している看護師を対象とした「認知症研修会」です。現在第6波の渦中ですが、この2年間で取得した知恵や手段で開催を予定しています。しかし、地区支部は地域住民へ向けて活動する役割を担っていることから、次年度は「市民講座」や「まちの保健室」等積極的に地域や多職種と繋がり、地域住民の健康に貢献できたらと考えています。



志太榛原地区支部

支部長 増田 伊佐世

昨年度より続くコロナ禍により、多くの活動を中止せざるを得ませんでした。特に第5波に見舞われた8～9月においては、「まちの保健室Ⅰ型」や10月に予定していた講演会も中止となりました。しかし、波の間を縫うように7月に「災害看護地区研修」を実施し、12～1月に各地で地域防災訓練に参加させていただくことができました。3月には初めてのリモート研修会を予定しています。地域住民や地域の看護職のために、できる範囲で地区支部活動を行っていききたいと思います。



西部地区支部

支部長 小林 ルミ

今年度も、新型コロナウイルス感染症の流行により、地区支部の活動は縮小しました。「まちの保健室」と「看護教室」は3回実施、3回予定していた研修会は2回となりました。研修会はオンラインでも集合でも参加できるように、ハイブリッド形式にしました。委員も参加者もオンライン研修に不慣れなため、事前準備や当日のPC操作に苦慮しました。「災害看護地区研修」は延期し12月に実施しました。昨年度から地区の防災訓練ができず、災害支援ナース育成研修に進めない状況です。今後も、難しい環境下でもできる活動を考え実施していきます。



～学び・育み・継ぐ～ 三職能活動

保健師・助産師・看護師の三職能がそれぞれの専門性を深め、多職種と連携・協働しながら活動を展開しています。令和3年度の重点活動や課題について報告します。

保健師職能委員会

委員長 土屋 厚子

保健師職能委員会は、行政（県、市、政令市）、産業保健、健診機関から選出された7人の委員で活動しています。

令和3年度の目標は

- (1) コロナ時代の新しい生活様式による地域住民の健康増進を推進
- (2) 職域間の保健師の連携強化
- (3) 会員拡大の推進

令和3年度の研修会は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、研修会を延期し、開催方法もオンラインを活用します。全国的に自然災害が増えている中で、静岡県でも熱海市の土砂災害が発生するなど危機管理の体制整備は急務となっています。テーマは「コロナ禍における災害時の保健活動」についての研修会を令和4年2月に企画しています。

また、令和4年1月に開催した保健師・助産師合同集会では、保健師と助産師が連携を強化し、母子を支えるための情報交換を行いました。グループワークは行いませんでしたが、質疑応答の時間を長くとり情報交換に努めました。

委員会では、コロナワクチンの接種体制や感染者への対応などの情報交換を行っています。今後も、各職

能と交流の機会を持ち、連携を深めていきたいと思っています。



▲保健師・助産師合同集会



助産師職能委員会

委員長 西郷 美智子

助産師職能委員会は7人で活動しています。全ての妊産褥婦・新生児及び全てのライフステージの女性に助産師のケアを提供するために、専門的技術を高め、より質の高いサービスを提供することを目的に事業展開をしてきました。

6月は「母子のための地域包括ケアシステム構築に向けての取り組み」について、日本看護協会助産師職能理事の井本寛子氏にオンラインでご講義頂きました。

7月は実践能力強化研修として「周産期領域での倫理的課題」について実施しました。周産期領域で起こりやすい倫理的課題についてグループワークを行い、日頃感じている倫理的な悩みを表現する機会となりました。

10月は三職能合同集会を開催しました。「コロナ禍における意思決定支援」をテーマにオンラインにて研修を行い、それぞれの立場でのコロナ対策について情報交換ができました。

11月は看護の日と協賛で「いいお産の日」のイベントも開催でき、看護師や助産師志望の高校生に日頃の業務について紹介しました。

1月は二職能合同集会と新人助産師研修を開催し、活発な意見交換ができました。

今後も助産師の質向上と、県内のアドバンス助産師が一人でも多く誕生し、主体的に役割発揮できるような専門的な知識技術が取得できる研修等を計画的に企画していきます。



R3.7助産師
実践能力強化研修▼▶



看護師職能委員会Ⅰ（病院領域）

委員長 中澤 範子

今年度の看護師職能委員会Ⅰは、看護師7人の委員で活動しています。令和3年度は前年度から引き続き、3つの課題に取り組みました。

一つ目は中間管理者を対象にした交流会です。COVID-19感染拡大の影響を受け、危機的状況下での自分たちの行動を概念化し、ポジティブマネジメントに繋がれるよう企画しました。自分たちの行動の意味を認識し、困難な経験を前向きに捉え、これからの看護管理に活用する事を学べた研修生が多くいました。交流会自体が、COVID-19感染の影響でZoomによる開催でした。オンラインの環境で、グループワークを行い、それを調整することは緊張感があり、難しいことの連続でした。それでも交流会のあと、講師の東京外国語大学 市瀬博基氏は「想定外のことが多少起きても、やってみればまあ大抵のことはなんとかなる!」と、まさにポジティブな言葉を頂きました。この言葉の温かさ、寛大さは管理者に必要なことだと実感しました。

二つ目は、准看護師の進学支援です。県内で働いている准看護師を対象に、看護学校の説明会と、受験対策として神戸常磐大学短期大学部 看護学科 通信制課程 課程長 金川治美氏に小論文の書き方を講義していただきました。

三つ目は、三職能交流会を開催しました。

昨今の医療は入院期間が短縮され、自分らしく地域

で生活しながら外来治療することが主流となり、地域包括ケアの重要性が高まっています。私たち病院領域の看護師に求められる役割も変化しています。そこに着目し、令和4年度は、病院看護師に求められる役割を理解し、地域住民の健康、生活を支援する活動に繋げることを基本方針としました。具体的には、外来看護師の専門性役割を認識し、地域と繋がる継続看護について考える研修会を予定しています。

地域住民の健康、生活を支援する活動は病院看護師だけでなく多職種協働が必要です。今後、施設・在宅領域の看護師・保健師・助産師と一緒に活動し、多角的に課題と向き合っていきたいと思います。



看護師職能委員会Ⅱ（施設・在宅領域）

委員長 戸田 美也子

看護職能委員会Ⅱ（施設・在宅領域）は、特別養護老人ホーム・老健施設・介護医療院・訪問看護ステーション・看護大学職員・クリニック・介護付き有料老人ホーム等に所属している7人のメンバーでやりがいを持って活動しています。このような様々な立場で仕事をしている委員の幅広い意見が反映できることも、この委員会の特徴です。令和3年度の委員会活動目標は「その人らしく生きるを支える看看連携を強化する」です。研修テーマは「フィジカルアセスメントを身につける」とし、コロナ禍のため、計3回全てオンラインとしました。

1回目は排泄のことを学びたいという希望に対して「排便コントロールと腸内フローラについて」、2回目は、看取りの研修希望が毎年多いので、疼痛コントロールなどに視点を变えて「患者・家族の声から見る緩和ケア」、3回目は最新IT機器を活用している施設が多くなったため「身体拘束と安全対策」の講義を受けた後「見守りIT機器の紹介」など学習しました。3回ともにオンラインでの研修による気軽さもあり、多くの方が受講してくれました。

令和4年度は、在宅施設領域において悩みが多い「精神看護」「ACP」等に焦点をあて、今後も知識と自信を

持って施設・在宅の利用者の生活と健康を守っていくことを目指した内容を予定しています。また、会員数の少ない在宅領域のクリニック等で働く看護師も巻き込み、日々悩みながら奮闘する同志をサポートできたらと願っています。

そして、病院領域だけでなく、保健師・助産師・看護師が切れ目なく連携・協働できるように「三職能合同交流研修会」を各職能委員と連携して開催していきたいと思います。



人の一生を支える看護職

看護職の仕事は傷病者や妊産褥婦の療養上の世話をしたり、診療の補助を行うことですが、病院や診療所だけでなく、訪問看護ステーションや福祉関連施設、企業、行政などの活躍の場は広がり、看護職に対する期待も大きくなっています。そこで、県内の様々な場所で働く看護職を紹介します。

あるがままでいることの大切さ



医療法人形外会
三島森田病院
廣瀬 菜々美

精神科看護に魅了されて5年目になります。元々心理学や哲学など人間の内面に關する分野に興味があり、様々なタイプの人を觀察し考察したり、自己の内面について考えたりすることが好きでした。精神科の看護師となり、患者さんの数だけ対応の仕方が変わっていくことに大変さを感じますが、そこが難しくもあり楽しくもあり、やりがいとなっています。人の心理状態や精神症状の觀察をすることは面白く、さらに他のスタッフの考察を聞くのもまた興味深く

感じます。患者さんから学ぶことも多いです。ストレス社会や自殺大国と呼ばれるこの国で幸せに生きるには、個々人がセルフコンパッションを高め、こころの多様性を認められる社会を作っていくことが大切だと感じます。あるがままでいることの大切さを、森田療法に携わる中で学ぶことができています。こころの多様性が認められる社会になることを願って、今後も精神科看護に携わっていきたいと思っています。

共に生きる



多機能型重症児者通所支援
ハピネス城北
妹尾 恵美子

50歳を機に働き方を考え始めました。人間関係などの悩みもあり将来に対して不安であった頃、看護学校時代の友人との突然の別れがありました。後悔しない生き方や働き方を深く考え病院を退職し、新たな一歩を踏み出すことにしました。福祉施設は未経験でしたが、先輩の勧めもありハピネスに入職、今年3年目になります。重症心身障害児（未就学児～高校生）、昨秋からは高校卒業後の重症心身障害者（生活介護）に関わっています。病院時代は退院指導として在宅療養のための支援をしてきましたが、ハピネスではご家族と共に社会の中で生きていくための支援をしています。医療と福祉それぞれの見え方の違いや、社会の中の生きにくさの現状を知り、福祉に求めら

れる支援、垣根なく医療と福祉を繋げていくためにできることなど病院での経験を活かしながら、日々楽しい時を過ごしていただけるよう努めています。人工呼吸器や胃瘻など医療的ケアを要するこどもたちの体調に注意しながら参加する様々な活動では、感動することばかりです。どのこどもたちも笑顔がとても素敵ですが、時には厳しい視線を向けられることもあり、看護師としてだけでなく、人として成長させてもらっています。こどもたちとご家族の笑顔を増やしていけるように、そして、出会えて良かったと思ってもらえるように、充実した毎日を共に生きていこうと思います。こどもたちとご家族とのご縁に感謝。

一人の人として関わる看護



医療法人好生会
三方原病院
杉田 百合子

看護師の仕事をもう一度一から始めたいと思い就職したのが現在の病院です。緊張して病棟に入ったとき最初に声をかけてくれたのは、長期入院の患者さんでした。そのあたたかな笑顔にホッとしたことを覚えています。精神疾患を発症するきっかけは様々ですが、育ってきた環境が大きく関係しています。虐待・育児放棄され人生に希望を持てず、リストカットを繰り返していた若い女性との出会いが、精神科看護のやりがいを教

えてくれました。患者ではなく一人の女性として向き合い、生きることの大切さを伝え、時には一緒に泣いたこともあります。そんな思いをしっかりと受け止めてくれた彼女は、今病氣と付き合いながら幸せに暮らし、時々外来で元気な顔を見せてくれています。精神疾患の人ではなく、一人の人として関わるのが精神科には必要な気がします。虐待・いじめ・ハラスメントなどのない、安全で優しい社会が来ることを祈ります。

第10回静岡県看護学会

看護のニューノーマル(新しい日常)を模索する
—生活・地域を守る、つなげる—

教育研修部 中村 さつき

令和4年1月15日に第10回静岡県看護学会を開催しました。COVID-19の感染拡大防止のためハイブリッド形式での開催とし、オンライン視聴85名を含む215名の方が参加されました。

基調講演は、浜松医科大学医学部看護学科教授 鈴木みずえ氏に「看護のニューノーマルに期待される私たちの実践～新型コロナによって再認識された看護の専門性と未来～」をテーマにご講演いただきました。参加された皆さんから「看護の素晴らしさと看護の役割・責任を感じた」「可能な範囲での最大限の看護の継続と工夫等、自分たちに今求められていることの示唆をうけた」という意見が聞かれ、私自身大変感銘を受け、現状に合ったテーマでした。

12題の口演発表は、看護実習、新人サポート、退院支援、外来教育、新型コロナウイルス感染妊婦の出産等と様々な領域から発表され、各施設でも参考になる内容でした。

シンポジウムでは、4名のシンポジストにより、がん患者、高齢者、周産期、地域包括に対応している現場からの報告がされ、コロナ禍でも地域とつながっている様子がよくわかりました。

今回の学会は、今の難局を何とか乗り越え実行していることに看護の素晴らしさと、未来に向け進んでいると感じました。



鈴木みずえ氏 基調講演

会長挨拶



シンポジウム



受講者募集

令和4年度4月・5月申込開始の研修紹介

No	研修名	申込期間
4	みんなで考え、広めよう看護倫理	4月1日～15日
10	後輩育成に活かすコーチングスキル	4月1日～15日
28	組織で取り組む医療安全 - 心理的安全性が高いチーム作り -	4月1日～15日
35	認定看護管理者教育課程 サードレベル	4月1日～11日
38	小論文・レポートの書き方	4月1日～13日
39, 40	看護研究の第一歩 - 研究テーマの絞込み -	4月1日～15日
67	新人看護職員研修(多施設合同)	4月1日～15日
57	新入会員研修 - 看護職として果たすべき役割を考える -	4月15日～30日
1	おさえておきたい糖尿病看護	5月1日～15日
8	臨床判断をOJTで活かして組織の看護力を高めよう	5月1日～15日
11～13	(JNA収録DVD研修)認知症高齢者の看護実践に必要な知識	5月1日～15日
14	ぐんぐん伸びる教え方・育て方	5月1日～15日
31	(公開講座)サードレベル「組織デザインと組織運営」	5月1日～15日
41, 42	看護研究の基礎 - 研究計画書にトライ -	5月1日～15日
23	(JNA主催)医療安全管理者養成研修	5月9日～20日
72	看護職員実習指導者等講習会	5月9日～18日

令和3年度 静岡県からの受託研修事業が終了しました

事業部では令和3年度静岡県より5つの研修事業を受託し、1,535名の方に参加頂きました。新型コロナウイルス感染症拡大の5波、6波とありましたが、昨年より多くの方の参加がありました。

【看護の質向上促進研修】 462名



今年も感染拡大に翻弄されましたが、すべての研修を終える事ができました。OJT研修は当初の予定を変更いたしました。が、皆様の協力で何とか近い形で次年度につなげる事ができました。

【病院勤務の医療従事者向け 認知症対応力向上研修】 872名

認知症の理解とケア、せん妄についての基本講義と多職種や本人家族も参加する模擬カンファレンス等からアセスメントや本人・家族・多職種への情報収集、連携を学びました。参加しやすいオンライン研修を全10回開催しました。

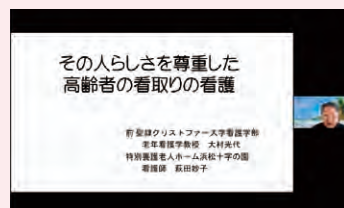
【暮らしをつなげる看護職員 のための研修】 81名

実習や研修の延期がありましたが、81名の研修生が受講証明書を手にできました。今年は、病院と地域をつなぐしくみについて看護管理者の方にも理解を深めて頂きたいと思い、組織における看護施策についての講演を看護管理者にも参加して頂きました。

**1,535名
が参加**

【高齢者権利擁護等推進事業】 39名

オンライン研修ではありましたが、高齢者のフィジカルを学び、急変時や看取り等現場に即した内容で進める事ができました。



【看護職員のための認知症対応力向上研修】 81名

認知症や認知症の人の体験、ACPを理解し、パーソン・センタード・ケアを実現する5つのStep(情報収集・アセスメント・看護問題・看護計画・評価)について演習を通し、自病棟の臨床問題対応へのアクションプランを立案しました。そして、受講者がPDCAに向けて実践中です。

訪問看護職員の病院研修事業に参加して

令和3年度スタートした事業です。今年度は、9カ所の訪問看護ステーションの参加がありました。1週間程度の短期研修ではありましたが、病院側の極め細かなご指導を頂き、病院における入退院調整システムや看護の実際について理解を深める事ができました。

【訪問看護ステーションいわた 中野 奈美子】

今回、療養病棟で5日間の研修を行いました。私は、臨床経験が少なく看護実践にとっても不安を抱いていました。今回の研修では、病棟看護師の方に同行し、様々な看護場面の見学や看護ケアを実践する事ができ自信に繋がりました。これからも利用者さん・ご家族の気持ちに寄添い信頼される看護師になれるよう頑張ります。



お知らせ

**令和4年度 地域包括ケアフォーラム
看看連携を基盤とした地域包括ケア推進支援事業の展望**

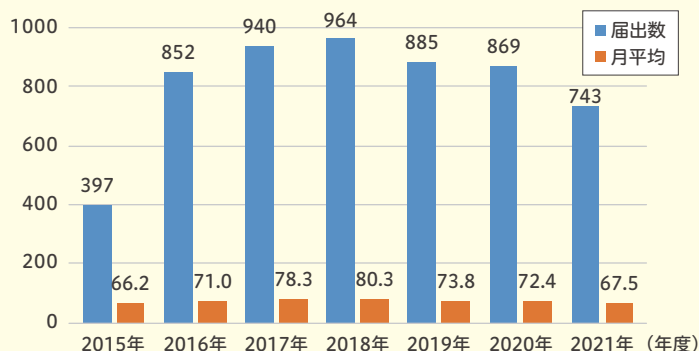
開催日時：令和4年5月28日(土) 会場：グランシップ 11階会議ホール・風

看護職離職時等届出制度について

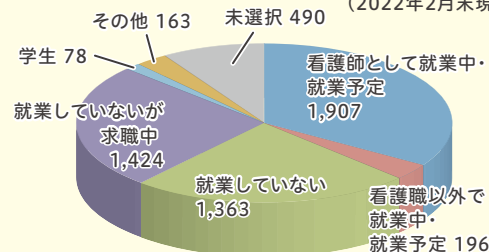
2025年には団塊の世代が75歳以上となり、看護職員が約196～206万人必要と推計されるため、看護職員の人材確保を進めるために、2015年10月に離職時等の届出制度が努力義務化されました。2021年2月までの6年5ヶ月の届出数は全国で163,035人、そのうち5,621人(3.4%)が静岡県では届出しています。届出制度にご協力いただき、ありがとうございます。

本届出制度は潜在看護師の就業促進につながりますので、引き続きご協力をお願いします。

届出者数 (単位:人) 2015年度は6ヶ月間、2021年度は10ヶ月間のため、月平均も表示
届出数は2019年度以降減少傾向



届出者の状況 (単位:人) n=5,621 (2022年2月末現在)



春は異動の多い季節です。
届出登録にご協力をお願いします。

ナースセンターでは届出登録をしていただくと就業していない方、求職中の方に連絡し、お仕事探しのお手伝いをしています。コロナ禍、ナースセンターからの連絡で、届出者の再就業が増加しました。また、登録内容の入力に不足がある方にも連絡しています。**お引越しをされる際は、ナースセンターへもご連絡をお願いします。**また、ナースセンターは全国組織です。他県へ転居される場合もご連絡をお願いします。

お知らせ

※相談・研修は、看護職であればどなたでも無料でご利用できます

1 移動相談 (予約不要)

県下16のハローワーク等に看護職の就業相談員が出向き、就業についてご支援します。お近くの会場にお出かけください。下記の日程で実施、ハローワーク浜北以外では求人施設が参加するミニ相談会も実施しています。

開催時間: ホームページで確認してください(掛川は午後)

ハローワーク	下田	伊東	三島	沼津	富士	御殿場	清水	静岡	焼津 (BiViキャン)	島田	掛川	磐田	浜松	浜北	細江	湖西 (新居地域センター)
4月		26日	26日	19日	12日		19日	13日	1日		4日		13日	15日		26日
5月	24日			17日	10日	24日		11日	6日	24日		17日	11日		24日	

2 再就業研修予定

実施施設	実施期日
静岡県看護協会	5月25日(水)・26日(木)・27日(金)
聖隷研修センター(浜松)	6月 6日(月)・ 7日(火)・ 8日(水)
三島商工会議所	7月 4日(月)・ 5日(火)・ 6日(水)

悩みは誰かに話しましょう

話した内容が他の人や職場に伝わることはありません。お気軽にご利用ください。

054-202-1780 (悩み専用ダイヤル) 平日 9:00～16:00

はなしてみよう

090-2183-8734 (新人専用ダイヤル)



メールでも相談できます

nayamishido@za.tnc.ne.jp

(公社) 静岡県看護協会 静岡県ナースセンター

相談時間/9:00～16:00

本所のみ火～木曜日は18:00まで

本 所: TEL 054-202-1761 FAX 054-202-1762

東部支所: TEL 055-920-2088 FAX 055-928-5037

西部支所: TEL 053-454-4335 FAX 053-401-3510

下田相談所(毎週木曜日9:00～16:00): TEL 080-2650-0327

天竜相談所(毎週火曜日9:00～16:00): TEL 080-2650-0237

ともいうりお氏を紹介

日本看護協会前参与
保健師・看護師・弁護士



次期参議院選挙の組織内代表に友納理緒氏 決定!

「大好きな看護を法律の面からサポートしたい」

友納理緒さんは、看護職にして弁護士。看護を目指して東京医科歯科大学で学んでいたときに、医療訴訟で辛い思いをしている看護師の力になりたいと、弁護士の道を目指しました。初心を貫き弁護士となった友納さんは“医療・看護に係る弁護士”として看護職の医療事故やハラスメント対応、法律問題の相談などに取り組んでいます。

現在は、令和4年2月25日次期参議院選挙の組織内代表が決定し、全国の都道府県看護協会等での講演活動をしながら全国の看護職の声を傾聴しています。静岡県にも来訪されています。

友納理緒著【ナースのための法律相談・判例解説】は皆さまの現場で役立つ書として活躍しています。

また、理緒さんは2児のママでお蕎麦大好き、趣味は歩きジョギング(^^♪、明るく話しやすい看護師です。看護職の代表者として是非応援をお願い致します。

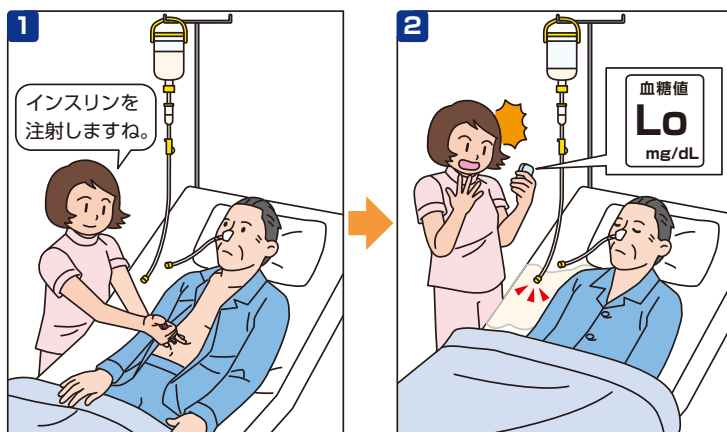
医療安全情報
2021年度 第6弾

医療安全推進のための取り組み

働き続けられる職場づくり推進委員会

インスリン投与後の 経腸栄養剤の未注入

インスリン投与後、経腸栄養剤のルートが未接続や開始忘れなどにより、患者が低血糖をきたした事例が報告されています。



事例が発生した医療機関の取り組み

- 経腸栄養剤のルートを経鼻栄養チューブなどに接続したことを確認後に滴下を開始する。
- 各患者へのインスリンと経腸栄養剤の投与について看護師間で情報共有する。

上記は一例です。自施設に合った取り組みを検討してください。

参考 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報No.174

★クイズに答えると、抽選で10名様にQUOカードが当たる!★



問題

平成13年、岡部町に新しく建てられた保健福祉センターの名称は?

「Vol.5」のクイズの答え: 6団体9市町

マリー様・渡邊まり子様・山口晃史様・
かとちゃん様・なおちゃん様・ゆみっちゃん様・
しんば様・工藤淳子様・登山女子様

応募方法

葉書又はメールで①答え②氏名③所属④電話番号⑤〒⑥住所⑦看護しずおかの感想⑧看護協会へのご意見をお書きのうえ、下記宛にお送り下さい。正解者の中から、抽選で10名の方にQUOカード(1000円分)を差し上げます。当選者は「Vol. 1」に掲載します(ペンネーム可)

■葉書の宛先

〒422-8067 静岡市駿河区南町14-25
静岡県看護協会総務部 看護しずおかクイズ係

■メールの宛先

kango@shizuoka-na.jp
又はQRコードから



応募締切日 4月30日(土)

読者の の 広場

いつも新しい情報楽しみにしています。
再就職のためのeラーニングを
活用したいです。

富士いきいき病院で、誰が見ても
職種がわかるユニフォーム色分けの
取り組みを見て参考になりました。



公益社団法人 静岡県看護協会

〒422-8067 静岡市駿河区南町14-25 エスパティオ3階
TEL.054-202-1750 / FAX.054-202-1751 編集責任者: 渡邊昌子

令和4年3月25日発行